上議第　１３１　号
令和８年５月８日

上越市長　小菅　淳一　様

上越市議会議長　渡邉　隆

特別委員会からの提言について

当市議会の「人口減少社会対策特別委員会」及び「観光振興対策特別委員会」では、令和６年５月の委員会設置以来、約２年間にわたり調査研究を続けてきました。

過日、両委員会から当職に対してその報告があり、調査研究成果を議会として行政に提言するよう依頼があったところです。

つきましては、下記のとおり提言いたしますので、行政運営の参考としてくださるようお願いいたします。

記

１　人口減少社会対策特別委員会　報告書　　別紙のとおり

２　観光振興対策特別委員会　報告書　　別紙のとおり

令和８年４月７日

上越市議会議長　　渡邉　隆　様

人口減少社会対策特別委員会
委員長　　本城　文夫

人口減少社会対策特別委員会　報告書

下記のとおり取りまとめましたので、報告いたします。
なお、提言内容については、行政運営の参考とすべく市長に提出くださるよう、よろしくお取り計らい願います。

記

１　設置目的

人口減少と少子高齢化の進行により、中山間地などにおいて地域コミュニティの維持が困難になるなどの影響が生じている状況を踏まえ、人口減少の抑制や、移住・定住及び交流人口の拡大等について対応策を調査研究し、政策提言を行う。

２　活動内容

⑴ 委員会の開催

① 令和６年 ５月 20 日　　正副委員長の選出について

② 令和６年 ７月 23 日　　今後の委員会の進め方について

③ 令和７年 12 月 25 日　　人口減少社会対策に係る市への提言について

④ 令和８年 ４月 ７日　　人口減少社会対策特別委員会報告書について

⑵ 勉強会の開催

① 令和７年 ２月 13 日　　上越市のこども・子育て支援について
【こども・子育て部から説明】

② 令和８年 １月 21 日　　提言書について

③ 令和８年 ２月 13 日　　提言書について

⑶ 管外視察の実施

① 令和６年 11 月 21 日　　福島県南相馬市

【概要】

人口減少対策を目的とした結婚・妊娠・出産・子育てに対する支援について調査。

詳細は別紙１の視察報告書参照。

② 令和７年 10 月６日　　岩手県二戸市

【概要】

人口減少対策としての妊娠・出産・子育ての支援について調査。

詳細は別紙２の視察報告書参照。

③ 令和７年 10 月７日　　青森県八戸市

【概要】

移住定住促進の取組について調査。

詳細は別紙２の視察報告書参照。

３　提言

⑴ 提言の背景

本市における人口減少は、出生数の減少と転出超過が重なった構造的課題であり、将来の地域社会の維持そのものに深刻な影響を及ぼしている。

この状況を打開するためには、従来の延長線上にある施策では不十分であり、移住・定住の促進と、子育て支援の抜本的強化を両輪とした、強い意思を伴う政策転換が求められる。

⑵ 基本的な考え方

① 人口減少対策は、短期的効果のみを求めるものではなく、将来世代に対する投資として位置付ける必要がある。

② 子育ては個人や家庭の責任に委ねるものではなく、社会全体で支えるべき公共的課題である。

③ 「上越市で暮らすこと」「上越市で子どもを産み育てること」が、安心で合理的な選択となる環境を整えることが、市の責務である。

⑶ 提言事項

① 移住・定住の促進に向けた施策

ア　生活不安の軽減

・教育、医療、生活インフラについて都市部と遜色のない水準を確保する。

・地方生活に伴う経済的・心理的負担の軽減に、行政が主体的に取り組む。

イ　就労支援の強化

・移住希望者と市内事業所との間における雇用のミスマッチを解消するため、行政主導による積極的なマッチング支援体制を構築する。

ウ　効果的な情報発信

・SNS 等を活用し、市民の日常生活や四季の暮らしを含めた「実際の上越での生活」を発信する。

・他自治体との差別化を意識した、市の特性を生かした PR を展開する。

② 子育て支援の抜本的強化

ア　子育てに係る経済的負担の大幅軽減

・子どもの医療費、保育料、給食費、義務教育に係る諸費用の無償化。

・高校・大学・専門学校等における教育費への大幅な助成。

・児童手当の拡充を含め、継続的かつ分かりやすい支援制度の構築。

イ　保護者の子育て時間の確保

・時間外勤務の抑制、有給休暇取得の促進など、仕事と子育ての両立を可能とする環境整備。

・事業所への奨励・指導を通じた働き方改革の推進。

ウ　相談・支援体制の充実

・小学校区単位での子育て相談拠点の整備。

・不登校、発達障害、児童虐待、ひとり親家庭、ヤングケアラー等への専門的かつ迅速な支援体制の確立。

・県との連携を含めた役割分担の明確化と情報共有の強化。

⑷ 財源確保と合意形成

これらの施策の実行には多額の財源を要することが想定されるが、人口減少が進行した場合の社会的・財政的損失は、それをはるかに上回る。

他事業の見直しや財政手法の検討を含め、市民との丁寧な議論を通じて理解を得ながら、実行に踏み出す決断が必要である。

⑸ まとめ

人口減少は避けがたい現実であるが、その影響を緩和し、持続可能な地域社会を築くことは可能である。

今こそ、市・議会・市民が危機感を共有し、未来世代のために踏み出す勇気ある選択を行うことを強く求め、ここに提言する。

別紙１

令和６年度　人口減少社会対策特別委員会　視察報告書

１ 視 察 日

令和６年 11 月 20 日（水）～21 日（木）

２ 参加委員

委員長　本城文夫、副委員長　滝澤陽一
委　員　熊倉隆将、牧井邦生、伊﨑博幸、安田佳世、平良木哲也

３ 視察先等

月　日	視察先	調査事項
11 月 21 日（木）	福島県南相馬市	人口減少対策を目的とした結婚・妊娠・出産・子育てに対する支援について

４ 説明を受けた内容

南相馬市では「ベビーファースト宣言」を行なっており、３つの無料化を実施している。

① 幼保から中学校までの給食費無料　予算　2億2,545万円
② 幼稚園・保育園等の保育料 無料　予算　3,936 万円
③ 18 歳までの医療費無料　予算　1億2,010万円

出生数の成果としては以下の通りとなっている。

	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
南相馬市	284人	307人	284人	269人	272人
前年比	-	+8.0	-7.4	-5.2	+1.1
福島県	11,552人	11,215人	10,649人	9,709人	9,019人
前年比	-	-2.9	-5.0	-8.8	-7.1
全国	865,239人	840,835人	811,622人	770,747人	727,277人
前年比	-	-2.8	-3.4	-5.0	-5.6

５ 参加議員の所感

・ 2024年11月21日人口減少社会対策特別委員会の視察で福島県南相馬市の市役所を訪問し、副市長や職員の方々から南相馬市が取り組む人口減少対策について説明を受けた。その中で特に印象的であったのは、副市長の「まずは常識を疑うところから始める」という言葉である。この一言には、現状を打破するために柔軟な発想が不可欠であるというメッセージが込められていると感じた。
・ また、副市長が「リスクと成果を天秤にかける必要があるが、なんでもダメと言うのではなく、行政がチャレンジする姿を見守ってほしい」と語ったことも心に残った。行政として新たな試みに挑戦し、その成果を市民と共有していく姿勢は、地方自治体にとって重要なことであると考える。

・ 南相馬市の取り組みの中で特に注目したのは、人口減少や子育て分野において、効果的に可視化されたPRツールを活用している点である。例えば、動画やパネルを通じて、取り組みの内容や理念をわかりやすく伝える工夫がなされていた。このような手法は、上越市においても参考にできると感じた。
・ さらに、南相馬市では「子育ての理念条例」が制定されている。この条例の具体的な効果については、今後の検証が必要であるが、市民の子育てへの意識醸成や、他地域へのPR効果という面で一定の成果が期待できるのではないかと考える。こうした取り組みは、上越市においても市民の共感を得るとともに、上越市の魅力を発信する有力なツールとなり得るのではないか。
・ 南相馬市での経験を通じて、上越市においても新たな挑戦を続けていくことが必要であると改めて実感した。柔軟な発想と市民との協働を基盤に、未来を共に創造する取り組みを進めていきたいと考えている。
・ 人口減少は震災の影響を受けての危機であり、差し引きでは人口が減っているものの、南相馬市への帰還者なのか年々移住者が大幅に増えている数値もある。南相馬市の数値は簡単には上越市と比較できないと思った。
・ まちづくりと絡めて少子化対策を進める南相馬市の事例は、先進地として非常に有益だった。今後の委員会の議論の出発点として最適な機会だったと思う。

別紙２

令和７年度　人口減少社会対策特別委員会　視察報告書

１ 視 察 日

令和７年10月６日（月）～7日（火）

２ 参加委員

委員長　本城文夫、副委員長　滝澤陽一
委　員　熊倉隆将、牧井邦生、伊﨑博幸、安田佳世、平良木哲也、渡邉隆

３ 視察先等

月　日	視察先	調査事項
10月６日（月）	岩手県二戸市	人口減少対策としての妊娠・出産・子育ての支援について
10月７日（火）	青森県八戸市	移住定住促進の取組みについて

４ 参加議員の所感

■岩手県二戸市　　人口減少対策としての妊娠・出産・子育ての支援について

二戸市では、妊娠期の支援については、生殖補助医療費助成、妊産婦歯科検診、妊産婦医療費助成、ハイリスク妊産婦健康診査等アクセス支援助成、妊婦インフルエンザ予防接種助成、産前産後サポート事業等を行なっている。

特に生殖補助医療費助成については、市単独事業として実施し、夫婦１組につき１会計年度100万円を上限に補助を行なっている。令和６年度は８組14件の助成を行なっており、実際に妊娠に結びついているケースもあるようだ。また、保険給付等により１件あたりの助成金額は高くても20万円程度であり、上限100万円という設定は充分とのことであった。

出産期の支援については、新生児拡大マススクリーニング検査助成、新生児訪問、乳児家庭全戸訪問、療育支援訪問、新生児聴覚検査助成、未熟児療育医療費助成、出産祝漆器給付事業、宿泊施設を活用したデイサービス型産後ケア等を行なっている。

特に産後ケア事業は、令和７年５月から市内の温浴施設を活用したデイサービス型の産後ケア事業として実施しており、母子の健康チェックや育児相談、乳房ケアなどを助産師が主体となり、内容により保健師や栄養士も対応を行なっている。相談できる安心感から、利用申し込みが殺到している状況とのことだった。

子育て期の支援については、乳幼児検診、５歳児健康診査、早期発達支援事業、小児インフルエンザ予防接種助成、おたふく風邪予防接種助成、子ども医療費助成、第２子以降保育料無償化等を行なっている。

事業によっては国や県が中心となって実施しているものもあるが、市単独事業や市

が追加で補助を行なっている事業も多く、支援の充実が妊娠・出産・子育てへの安心感に繋がっているのだろう。一方で、質疑応答の中で、やはり第２子以降よりも第１子へのハードルが高いこと、また市独自の施策が充実しているという自負はあるが PR には課題があることなどをお聞きし、施策の充実が第１子への出産、さらには地域の人口減少解決へと繋がるのか、その関連性は改めて難しいと感じた。

しかし、各施策の内容をお聞きし、上越市の取り組みをさらに拡充できる可能性があることや、上越市も取り組むべき内容もあったので、今後の政策提案へと繋げていきたい。

■青森県八戸市　　移住定住促進の取組みについて

八戸市は、移住者の意思決定プロセスに基づき①「関心」、②「情報収集」、③「相談」、④「関係」、⑤「移住」の５段階の理論的な施策体系のもと、部局横断の司令塔機能、周辺町村との広域連携、質の高い情報発信と手厚い支援制度、市民提言を事業化する仕組みなどを組み合わせて、強い危機感と「本気度」をもって移住・定住促進に取り組んでいる。

さらに、若者のインターンシップを行政が主導して支援する取組は、当市においても特に高卒者の定着を促進する意味で重要であると感じるとともに、市内企業を真の意味で大切にする取組として学ぶできであると感じた。

その先進性と同時に、人口減少下で移住施策には限界があるという現実的な認識は、上越市にとって施策の重点化と覚悟ある政策判断の必要性を示唆するものであると感じた。

令和８年４月 14 日

上越市議会議長 渡邉　隆　様

観光振興対策特別委員会
委員長 宮川 大樹

観光振興対策特別委員会 報告書

下記のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

なお、提言内容については、行政運営の参考とすべく市長に提出くださるよう、よろしくお取り計らい願います。

記

1　設置目的

上越市独自の観光振興の基本的戦略について調査研究し、政策提言を行う。

2　活動内容

(1) 委員会の開催

① 令和６年５月 20 日　　正副委員長の選出について
② 令和６年７月５日　　今後の委員会の進め方について
③ 令和７年 11 月 27 日　　委員長の互選について
④ 令和８年４月 14 日　　観光振興策提言について

(2) 勉強会の開催

① 令和６年８月 19 日　　観光振興策提言に向けたまとめ方の検討について
② 令和６年 10 月３日　　各委員からの提言事項の選別について
③ 令和６年 12 月 23 日　　観光振興具体策の分類及び絞り込みについて
④ 令和７年２月３日　　講演:春日山城跡で考える文化財の活用について
⑤ 令和８年１月 19 日　　観光振興策提言のまとめ方について
⑥ 令和８年２月 13 日　　観光振興策提言の内容について

(3) 管外視察の実施

① 令和７年 11 月 20 日 福井県福井市

【概要】

福井市観光振興計画、観光資源としての一乗谷朝倉氏遺跡について調査。
詳細は別紙１の視察報告書参照。

② 令和 7 年 11 月 21 日　石川県金沢市

【概要】

金沢市持続可能な観光振興推進計画について調査。

詳細は別紙 1 の視察報告書参照。

【活動一覧】

日　付	委員会	勉強会等	内　容
令和 6 年 5 月 20 日	第 1 回		正副委員長の選出について
令和 6 年 7 月 5 日	第 2 回		今後の委員会の進め方について
令和 6 年 8 月 19 日		第 1 回	観光振興策提言に向けたまとめ方の検討について
令和 6 年 10 月 3 日		第 2 回	各委員からの提言事項の選別について
令和 6 年 12 月 23 日		第 3 回	観光振興具体策の分類及び絞り込みについて
令和 7 年 2 月 3 日		第 4 回	講師：小島幸雄氏 演題：春日山城跡で考える文化財の活用について
令和 7 年 11 月 20 日、21 日		管外視察	福井県福井市一乗谷朝倉氏遺跡 石川県金沢市観光局
令和 7 年 11 月 27 日	第 3 回		委員長の互選について
令和 8 年 1 月 19 日		第 5 回	観光振興策報告書のまとめ方について
令和 8 年 2 月 13 日		第 6 回	観光振興策提言の内容について
令和 8 年 4 月 14 日	第 4 回		観光振興策提言について

3　経過

上記のとおり、この 2 年間、委員会 4 回、勉強会 6 回並びに管外視察を実施。各委員から観光に対する考え方を聴取。当市にとって観光振興に資する具体策を選出し、3 つの分野に区分けした。

当市の観光政策は現在、岐路に直面している。当市の最上位計画である「上越市第 7 次総合計画」では、「魅力と活力があふれるまち」の政策展開の方向性の中で、「まちの魅力をいかしたにぎわいの創出」として具体的に①観光地域づくりに向けた資源の発掘と磨き上げ　②年間を通じて来訪者を受け入れる環境づくり　③広域的な周遊・滞在型観光と市内の回遊性の向上　④地域の多様な魅力の発信　⑤各種コンベンションの誘致や開催の支援を打ち出している。これらの考え方のもと中川前市長は高田・直江津・春日山を重点区とした通年観光計画を推し進めたが、昨年秋の小菅新市長の誕生を機に政策の方向性がどうなるか待たれる現況である。

4　提言

当委員会としては、重視すべき取組を「上越市固有の歴史文化」「自然と文化」「観光まちづくり」の３分野に分類し(別紙２参照)、観光のあるべき姿を探究してきた。

その結果を次のとおり提言するので、市政においてその実現を図ることを強く要望する。

【提言 1】　文化財保存活用地域計画の早期策定

（趣旨）

上越市には豊かな歴史的・文化的資源が存在しており、それらをしっかりと保存し、次世代に繋げていくには、保存はもとより「活用」の視点も重要である。

文化財保存活用地域計画の策定を通して、上越市の文化財の棚卸しを行い、それらをどのように保存し、活用していくのかについて、包括的・総合的な計画の道筋を示すことができる。

また、地域計画を策定することによって、国の財政的・人的支援を受けやすくなり、大規模災害時に文化財をどのように守っていくのかという「文化財レスキュー」の視点を盛り込むことが可能となる。さらに、春日山城跡保存管理計画等、既存の計画との整合を図ることにより、文化財の保存・活用に一体的かつ継続的に取り組むことができる。

（具体策）

法定計画である「文化財保存活用地域計画」を早期に策定すること。

【提言 2】　観光資源の保全及び磨き上げのための市独自条例の制定

（趣旨）

本市は、上杉謙信公ゆかりの歴史資産や、春日山・直江津・高田城下町の町並み、寺町や雪国特有の雁木通りなど、全国に誇るべき観光資源を有している。

一方で、滞在時間の短さや回遊性の不足が課題となっており、観光資源である歴史的資産や景観の喪失も後を絶たない状況にある。

今期当委員会では金沢市及び福井市を視察し、金沢市においては「観光資源の保全及び磨き上げのため、種々の条例を策定」し、「壊させない、守り育てる」という強い姿勢で、寺社や町並みの風景を守っている実態を確認した。

特に「寺社風景保全条例」は、寺社やその周辺の景観を単なる観光資源としてではなく、市民が心を休め、地域のつながりを育む「憩いの場」として大切に守ることを目的としており、市民の誇りと高い観光価値を両立させている。

寺町や雁木通りの景観は、市民の暮らしとともに育まれてきた大切な財産であり、一度失われれば取り返しがつかない「市民共通の財産」であることから、これらを法的に保護する市独自の条例を制定する必要がある。

また、町家等の宿泊施設や食文化と結びつけることで、観光客の滞在時間も確保され、観光客が憧れる「通年型・滞在型観光都市」となりえると考える。

（具体策）

上越市が誇る歴史的な景観や文化を「地域の宝」「市民共通の財産」として再認識し、それを守り、磨き、さらに魅力あるものとして次世代へつなぐため、市独自の条例を制定すること。

例えば、寺町地域の寺社等の風景保全への取組を推進するため、金沢市の「歴史的文化資産である寺社等の風景の保全に関する条例（寺社風景保全条例）」を参考にするとともに、現行の雁木整備支援などの取組をさらに推進するため、同市の「歴史が香る”ちょっといい町”を守り育てる条例（こまちなみ保存条例）」を参考にしながら、同様の趣旨を持つ条例の策定を求める。

観光資源の保全及び磨き上げ、寺社やその周辺の景観を市民の憩いの場として守ること、住民のコミュニティや歴史的文化資産を後世へ継承することを目的とし、区域を定め、建物の新築、改築、増築、移転、除却、大規模な修繕、模様替え又は色彩の変更等に伴い、届出や許可を必要とする仕組みや助成のあり方を定めること。

【提言 3】　歴史的資産の復元及び可視化の推進

（趣旨）

福井市一乗谷では、徹底した「復元と可視化」が訪れる人々の感動を呼んでいた。

本市においても、歴史的資産を体感できる形で可視化することにより、観光資源としての魅力向上や、滞在時間の確保、回遊性の向上につながると考える。

（具体策）

高田城の枡形門や時の鐘の復元、またバーチャルでの可視化、春日山城跡の整備など、訪れる人が本市の歴史を体感でき、楽しめる整備を進めること。

以上

別紙１

令和７年度　観光振興対策特別委員会　視察報告書

１ 視 察 日

令和７年 11 月 20 日（木）～21 日（金）

２ 参加委員

副委員長　平原留美

委　員　大島美香、髙橋浩輔、橋本洋一、滝沢一成、こんどう彰治

３ 視察先等

月　日	視察先	調査事項
11 月 20 日（木）	福井県福井市	福井市観光振興計画、観光資源としての一乗谷朝倉氏遺跡について
11 月 21 日（金）	石川県金沢市	金沢市持続可能な観光振興推進計画について

４ 視察報告

⑴ 福井県福井市　福井市観光振興計画、観光資源としての一乗谷朝倉氏遺跡について

① 視察概要

福井市は中心部の「まちなか」と、それぞれの個性を持つ地域が一定のエリアにコンパクトに凝縮されており、容易に回遊が可能な環境にある。当日は福井市の担当職員より観光振興に対する取組の説明をいただいた後、一乗谷朝倉氏遺跡に移動。現地にて遺跡の保存活用を担う「(一社) 朝倉氏遺跡保存協会」の会長に遺跡の保存活用について説明をいただきながら視察を行った。

② 視察内容

一乗谷朝倉氏遺跡は、戦国大名「朝倉氏」が５代 103 年間治めた戦国城下町跡で、1573 年織田信長に焼き滅ぼされ、以来約 400 年間土の中であったがその遺構は大きく損なわれることなく「奇跡的に」ほぼそのまま残った日本のポンペイとも言われている。昭和 40 年代から地元・地域一丸となって徹底した発掘調査が進められ、それを基に丁寧な保存・活用がなされてきた。遺跡全体が国の「特別史跡」、４つの庭園跡は「特別名勝」、出土品は「重要文化財」と全国でも６例しかない「国の三重指定」となっている。

福井市の観光施策として、将来的には令和 11 年（2029）春、中部縦貫自動車道の県内道路開通予定を見込んで、インバウンド誘客の強化・広域観光を推進している。

一乗谷では「復元」ではなく「復原」を手法として用いられてきた。本物だから「復元」ではなく「復原」とし、エリア内には発掘された遺構をそのまま復原した「平面復原地区」や、発掘された遺構・遺物に基づき建造物が再現された「復原街並」がある。家々の石組

みの土台、井戸、便所、道から家に入る踏み石などすべて本物であった。

「建物のつくりはさすがに想像で作っているのでしょう」との質問に対しても、「織田勢に焼き滅ぼされたとき、礎石に接していた柱の根元が焼け残り、四角く柱の跡が残り、その寸法で柱を立てた。家屋のつくりは当時の京の街図に描かれているものを参考にした。雅な京文化を尊んだ土地なので、まちは京に似ていたことは容易に想像できる」との答えであった。

戦後少しずつ遺跡発掘を進めるなかで、これはとてつもない遺跡であることが明らかになり、国は概ね田畑であった私有地を国有地としていった。農民たちが土地を手放すにあたっては様々な困難があったようである。一つの解決策として、土地を手放した人たちが、遺跡を管理する会社をつくり運営することになったという。以来、その会社が管理を請け負っている。地元の方々にとって、単なる遺跡は生産性のない、むしろ日々のなりわいに無益な存在となることも多い。それを、観光業という「金を産む」存在に変えていくアイデアと時間をかけた努力を民と官がやれたという点は注目してよい。

③ 考察

福井市一乗谷朝倉氏遺跡とは、ナラティブ（物語）とファクト（事実）を、地元と行政が時間をかけて訴求し続け、観光資源として確固たる存在に造っていった、その好例であると思う。だが物語だけでは、観光地とならない。そこに足を運び、実感できるファクト（事実）が必要である。一乗谷にはそれがある。掘り返せば、手つかずの、まがい物ではない実物が出てくるのである。地元と行政が時間をかけて観光資源としていく。それが大事なことを今回学んだ。

上越市における史跡の「復元」で議論の俎上に上がるのは高田城跡の桝形門や春日山城跡である。「復元」は明確な資料に基づいて行われるものであり、慎重かつ厳格に行われなければならないことは理解できるし、そうでなければならない。しかしながら、文化財の観光や教育等への積極的活用ニーズの高まりや次世代への継承を考慮した場合、「可視化＝見える化」への議論は避けては通れない。こうした背景により文化庁も令和 2 年に従来の「復元」に加え、（調査を尽くした結果）本来の意匠や構造が正確には分からなかった場合でも「復元的整備」として認め、文化財の積極的活用に幅を持たせている。このような変化に鑑み、当市においても「復元的整備」を前向きに検討すべき段階に来ていると感じた。

文化財の積極的活用や継承に向けて、より多くの対象に訴求するためには一定程度の「可視化」は必要である。そのために、先ずは発掘をはじめ史料文献等の調査研究を徹底して

行うこと。そして、それに基づいた文化財の保存活用に向けた計画を策定し、関係する主体や市民と中長期ビジョンを共有することが大切である。

上越市に対しては法定計画である「文化財保存　活用地域計画」の早期策定を望みたい。また同時に、間もなく改定時期を迎える「国指定史跡　春日山城跡保存管理計画」や各計画とも整合を図り、中長期の保存活用に一貫して取り組めるよう仕組みを整えるべきと考える。

文化財の保存・活用に対して、今後どの主体がどのように役割分担をしていくのかを見据えつつ、特に春日山において行われているような担い手の育成にも引き続き取り組むことが大切である。

観光プロモーションについては、先進事例も参考にしつつ様々な主体や地域との協力連携により、更に効果的に進めて頂くことを望む。実効性のある施策を計画しなければ画に描いた餅状態になるのではと危惧する処である。

⑵ 石川県金沢市　金沢市持続可能な観光振興推進計画について

① 視察概要

金沢市役所にて、経済局観光政策課より「金沢市の観光行政」についての説明を受けた後、質疑応答及び意見交換を行った。金沢市は、「持続可能な観光振興推進計画」として歴史と文化をまちづくりの中心に据えつつも近代化にも力を入れたまちづくりとして、都心軸を設けて区域分けし、「保存」: 伝統環境保存区域と「開発」: 近代的景観創出区域と「まちなか区域」として明確に示し、長年にわたりまちづくり施策に取り組んでいることに強い印象を受けた。

② 視察内容

前田家以来の城下町としての明確なストーリーを持ち、市独自の条例「伝統環境保存条例（昭和 43 年制定）」を皮切りに「景観まちづくり関連条例」が 27 条例もあり、これらを活用して町並みや用水、伝統文化を守りながら観光資源として磨き上げている点は、上越市が学ぶべき重要な視点だと感じた。

また、周遊バスやシェアサイクルなど、観光客が回遊しやすい環境整備が徹底されていることも、都市としての魅力と利便性を高める要因となり、ここまでの観光地として選ばれる理由がよく理解できる。

③ 考察

金沢市の観光施策で特に印象に残ったのは、「国内１５都市との交流プロモーション」、「ミシュランガイド評価３都市との連携」の２点であるが、いずれも首都圏及び関西圏都市との広域連携が主で、当市を含む上越圏との交流が盛り込まれていなかったのは残念であった。

その理由は上越圏域の魅力が足りていないということであろう。これまでの寺町サミットや北前船寄港地交流などの広域連携も今は有名無実化している。加賀藩参勤交代のルートは北陸新幹線のルートとも重なる。広域連携のポイントは上越の商品価値の向上すなわち魅力度アップにあるということを痛感した。

上越市は、夜桜、蓮、SAKE まつり、日本スキー発祥地など全国に誇れる資源を持ちながら、それらをうまく活用できていない、また周遊できるだけの整備がなされていない、魅力の発信に弱い等々課題を改めて認識した。金沢市の取り組みは、上越の観光資源と類似する点が多く（城下町・寺町・伝統文化等）を「どうまとめ、どう見せ、どう守るか」の良き参考となった。

また、体験プランの消費が多いとのことで、金沢市では 200 もの体験プランが存在する。その数の多さに驚いた。「コトの商品化～上越でやってみたいコト！」は上越市でも今まで以上に「上越でなくてはできないコト」を発掘しどんどんと実践していく価値があると感じた。また、時代に即したインフルエンサーに焦点をおき「ファムトリップ」を金沢市では実践されていて、情報の拡散は観光には即有効的と良い事例と感じた。

今回の視察を通じ、上越市においても、「歴史・文化の整理」「観光と市民生活の調和」「回遊性向上」「計画的な観光マネジメント」の重要性を再確認し、得られた学びを今後の上越らしい持続可能な観光の形として「伝統文化を守りつつ、生活しやすく、楽しく観光できる」為にどう取り組むか、大変参考になる有意義な視察であった。

以上

別紙２

上越市固有の歴史文化
・　観光地域づくりに向けた資源の発掘と磨き上げ
・　地域の多様な魅力の発信
・　町家雁木をいかしたまちづくり、昭和レトロのまちづくり
・　坂口謹一郎先生
・　NIPPONIA的なまちやホテルを整備し、拠点化
・　御剣祭　南方山
・　高田城の復元(枡形門の復元・時の鐘塔の復元)、枡形門模擬門づくり運動着手
・　岩の原ワイン城の整備(ワインの父川上善兵衛顕彰事業)
・　高田城址公園内に宿泊施設を開設
・　高田城址公園の整備と観桜会の強化
・　日本スキー発祥の地アピール
・　上杉謙信公に関わる具体策と上越市のシンボルとしての育て上げ

自然と文化
・　観光地域づくりに向けた資源の発掘と磨き上げ
・　地域の多様な魅力の発信
・　ワールドトレッキングリゾート地開発
・　岩の原ワイン城の整備
・　ヴァッカス街道の整備
・　上越ならではの「食」の開発と、大々的アピール
・　金谷山さくら千本の会・ホタルの里の活動の継承
・　大国主命×奴奈川姫　伝説地
・　光ヶ原、南葉高原

観光まちづくり
・　年間を通じて来訪者を受け入れる環境づくり
・　広域的な周遊・滞在型観光と市内の回遊性の向上
・　各種コンベンションの誘致や開催の支援
・　日本桜庭園上越構想
・　オーシャンヒストリーロード
・　観光地域づくり法人（DMO）の形成・確立
・　観光ツアーの開発や観光ガイド育成
・　上越妙高駅における乗降者の利用動向調査
・　ゴンドラ構想
・　世界遺産佐渡島への玄関口としてＰＲ・おもてなし
・　周辺ツアーの実施（高田城址・榊神社・師団長官舎、高田本町ぶら歩き等）
・　高田駅から城址公園まで一角に仲見世
・　水族館(うみがたり)と海側を地中海まちづくりの一体整備
・　上越妙高駅「脇野田通り」での一般商用利用の緩和
・　オーレンプラザのバスセンター化
・　上越ならではの「食」の開発と大々的アピール